

# 愛護

—精神薄弱福祉研究—

## 〈目次〉

巻頭の写真（「大阪教育治療院（島村塾）」）……………吉永太市… 1

**論苑** 心身障害者の支援のネットワーク……………吉武民樹… 2

### 特集「社会生活を拡大する援助をすすめる」

- ①対談；エリザベス・フリース女史に聞く  
社会生活を拡大する援助—デンマークの場合…………… 7
- ②障害児を取り巻く人間関係の調整と援助  
—家族関係を整えつつ、人間関係を広げる—……………岩崎隆彦…14
- ③障害者青年学級に参加する中で……………小山晴義…20
- ④青年学級から生涯学習学級へ  
—「くさのね学級」20年のあゆみ—……………阿部芳寿…25

**施設訪問記** 山口・安岡苑……………松下良紀…30

**用語事典** 初潮周辺症候群……………小林隆児…36

**東西南北** 動きはじめたグループホーム制度  
……………中澤 健・河野和代…37

### TRY & TRY

- 「出発の朝」制作ノート  
……………京都市民生局福祉部障害福祉課 永岡正美…42
- リスと障害者—授産施設として新しいこころみ—  
……………東京・町田リス園愛の鈴 桑原光代…45

## 用語事典

### 「初潮周辺症候群」

昨今の精神科臨床場面で思春期患者の増加とその若年化は目を見張るものがある。その中で思春期にさしかかる過渡的な時期として前思春期が情緒発達上重視され始めた。初潮周辺症候群とは、未だ母親に対して依存の態度が強い・幼児の対象関係にある前思春期の子ども達に、乳房の発達や初潮などの第2次性徴の発来によって母子関係に様々な波紋が巻き起こり、それが引き金となって引き起こされる心身にわたる様々な症状を呈する一連の病態を指す。この概念は昨年(1988)、牛島定信(福岡大学精神科教授)と筆者によって提唱されたものである。

心身にわたる症状は強迫、抑うつ、拒食、転換など多彩であるが、発病に至る経過と治療経過の中で認められる共通点として、

- (1) 元来強迫的性格傾向をもつこと、
- (2) 発病の過程に抑うつ傾向が存在すること、
- (3) 母親に対する依存欲求と攻撃性の高まりから再接近危機(M. S. Mahler)が訪れること、
- (4) そこからの回復過程で過渡対象(移行対象)が重要な意味をもつこと、
- (5) 母親からの心理的自立が進む際に父親が理想的なイメージとして出現すること、

などが指摘されている。

この症候群の重要な点は、第2次性徴の発来に伴う漠然とした子どもの不安が本来

なら母親の柔軟で適切な対応によって吸収されるはずなのに、逆に母親の介入によって子どもの不安が増大し、母子関係に悪循環が生じてしまうという昨今の母子関係の病理の特徴を取り上げ、子どもの不安の意味を第2次性徴の発来との関連でもって捉えることを強調した点である。なぜなら症状の背景にある第2次性徴の発来にまつわる不安を取り上げながら母親に子どもへの適切な対応を援助すれば、複雑な病態への発展を食い止め、不安が吸収されるとともに前思春期の情緒発達が促進されるからである。

障害児の場合にもこうした視点は重要で、子どもの自立が容易には進まない彼らでは母子関係も幼児的对象関係に停滞りやすく、一方で生じている思春期の到来による攻撃性の高まりをつい問題行動として受け止めやすく、子どもはますます退行し、母子関係に様々な波紋が巻き起こり易い。

ここで重要なことは、障害児の本来のハンディキャップやそれに基づく行動特徴と思春期の到来によって起こってくる様々な行動上の変化を区別しながら冷静に受け止めて、前思春期の情緒発達がうまく促進されるように援助することである。臨床場面では母子関係の特徴をみながら、母親の現在までの苦労を十分に共感しながらも、子どもの心理的自立を見守ることが可能になるような環境条件を整えるように最大限の援助をすることが肝要である。

小林隆児(大分大学教育学部助教授)